

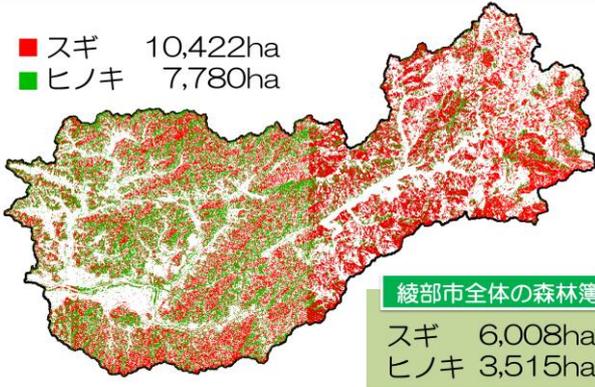
分類 番号	A30	取組 名称	木材の安定的供給にむけた川上の資源管理のあり方と川中・川下までの一貫体制の構築
研究代表者：	生命環境科学研究科	職・氏名：	助教・長島 啓子
研究担当者：	京都府立大学（長島啓子、研究協力者：石橋早苗、豊濱萌）		
外部分担者・協力者	（綾部市農林商工部農林課農林振興担当 坂根博之氏、 日吉町森林組合 小林耕二郎氏、 京都府南丹広域振興局農林商工部森づくり推進室 高屋一人司氏）		
主な連携機関 （所在市町村、機関（部署）名）			
綾部市農林商工部農林課農林振興担当、 京都府南丹広域振興局農林商工部森づくり推進室、日吉町森林組合			
【研究活動の要約】			
<p>人工林の適切な整備の推進と林業振興と農山村の活性化のために、原木生産から木材供給までの一貫体制構築が必要であることがわかってきた。このため、本研究では（I）長期的視野にたった森林管理計画を実践するための川上側の森林資源情報の整備および（II）利害関係にある川上・川中・川下の連携可能条件を探ることを目的に研究に取り組んだ。（I）では、衛星画像の解析により綾部市の林相区分図を作成し、現在利用されている森林簿との違いを把握した。また日吉町と京都府立大学大野演習林で最新の技術である地上型レーザースキャナーを利用し、樹木の直径・樹高などがどこまで把握できるかを、現地調査結果と比較することで把握した。（II）では、綾部市からの木材の流れを把握した上で、素材生産業者には川中（加工・流通業者）や川下（工務店）への要望を、川中・川下には素材生産業者への要望の聞き取りを行い、供給量が増加した場合に、取扱量の増加が見込めるかなどの質問を行った。</p>			
【研究活動の成果】			
<p>【川上側の森林資源情報の整備】綾部市の林相区分図を作成したところ、スギ10,422ha、ヒノキ7,780haが抽出され、現森林簿のスギ6,008ha、ヒノキ3,515haよりも多い面積が抽出された。このため、現森林簿で把握されている人工林よりも、かなり多くの人工林資源が存在する可能性が示唆された。日吉町および大野演習林で実施したレーザースキャナーによる調査の結果、胸高直径は大野で±5.3cm、日吉で±2.9cm、樹高は大野で±4.3m、日吉で±1.8mであり、大野での精度が悪かった。90年生の林分である大野のように、立木の直径や樹高が大きいと、レーザーが立木に遮られる、梢端まで届かないなどの理由で精度が悪くなることがわかった。このため、大径木の単木管理に用いるには課題が残る形となった。</p> <p>【川上・川中・川下の連携可能条件】綾部市内の素材生産業者はA材の9割を原木市場に出荷、1割を直接製材業者に出荷していた。京都府産認証木材の流通には主に京都府内の3つの事業体を経由した流れがあり、これらを経由する木材流通量を増やすことができれば、さらに京都府内産材の流通を促進できると考えられた。聞き取りを行った結果、川中・川下における木材の利用促進には、川上から何m³、いつ出てくるのかを明確にするとともに、一定量を確保するための増産が必要であることが判明した。このため、①川上の生産計画、②増産体制の構築、③川中・川下との情報共有システムの開発が必要と考えられる。</p>			
【研究成果の還元】			
<p>綾部市林業戦略会議での報告：計4回（H27.5.28、H27.12.3、H28.2.3、H28.2.23） 綾部市林業推進計画への調査結果の反映 報告会：平成28年3月4日 京都府立大学にて（京都府、森林組合、企業など15名程度参加）</p>			
【お問い合わせ先】			
<p>生命環境科学研究科 森林計画学研究室 助教・長島啓子 Tel: 075-703-5635 E-mail: nagakei@kpu.ac.jp</p>			

参考 (イメージ図、活動写真等)

①衛星画像解析結果

衛星画像を分類した結果

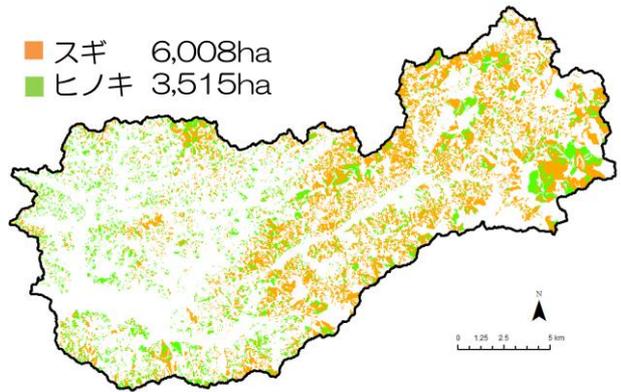
■ スギ 10,422ha
■ ヒノキ 7,780ha



②現在利用している森林簿

綾部市全体の森林簿

■ スギ 6,008ha
■ ヒノキ 3,515ha



③レーザースキャナー調査を実施した
大野演習林の林分

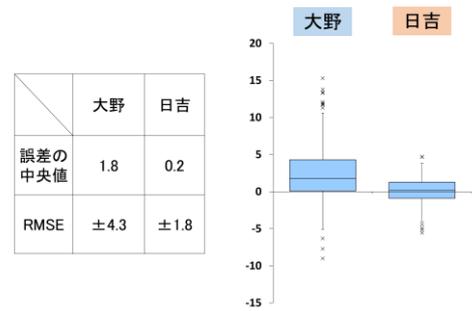


④レーザースキャナー
で得られたデータ



⑤ 樹高の誤差

結果～樹高



⑥川上、川中、川下イメージ図



⑦一貫体制構築に必要な課題

